

雨にも負けず 今年も史上最多 566名が力走！

新春かつおジョギング大会

第31回枕崎新春かつおジョギング大会が1月27日、総合グラウンド周辺や火之神、内鍋折り返しのコースで行われました。

冷たい小雨が降るあいにくのコンディションでしたが、市内外から参加した幅広い世代の選手たちが、新春の枕崎路を元気に走り抜けました。

◆大会結果

■1km ■小学1～3年【男子】①森成礼②三田貴央③茅野雅博【女子】①寺田凜②松野下留以③諸留綾美 ■小学4～6年【男子】①寺田龍霸②大倉裕祐③新徳勇介【女子】①出来亜伽②蔵前佳那子③中尾優芽

■2km ■小学【男子】①寺田雄輝②山下佑介③松崎康輝【女子】①上村麻夢②唐湊惠美利③唐湊愛里 ■中学①黒瀬智史②中村尚徳③丸野将輝【女子】①市田あい②栗野晴香

■4km ■中学【男子】①馬込孝孝②依積田寿志③福元魁平【女子】①田中桜②依積田早紀③有園丹衣奈 ■高校～29歳【男子】①津崎裕良②上迫田和也③田中慎也【女子】①日置ひろみ②小崎愛子 ■30～49歳【男子】①若狭俊一②大倉野守③橋元正博【女子】①有木千代子②吉留早木子③橋口由美子 ■50歳～【男子】①城ヶ崎健一郎②竹ノ内司③牛山好治【女子】①外菜穂子②福元早百合③神園悦子

■10km ■高校～29歳【男子】①末光飛鳥②松崎晃太③長谷一穂【女子】①下山美香②古川愛③小湊有美 ■30歳～49歳【男子】①有木俊二②上益英世③郷原正文【女子】①宿里正子②西村美和③中村嘉奈美 ■50歳～59歳【男子】①杉原健一②福元修一③川路安洋【女子】①竹崎清子 ■60歳～【男子】①別府紘二②松尾義和③権藤長光



なぜ今、市民協働なのか？

国際化や少子化、高齢化等による社会動向の変化や市民ニーズが多様化する中、本市における財政事情は、望ましい住民生活や社会形成を実現する上で厳しい状況下にあります。

まちづくり施策推進の主体とその責任は行政にあります。が、このような中で施策推進に当たってはこれまで以上に市民の主体性を尊重し、ニーズに即した計画が必要とされ

る一方で、市民にあってもニーズを行政に寄せ、その実現を行政頼みにするだけではなく、市民自身が主体性を持ってまちづくりに参加することが求められています。

基本理念と推進の柱

『市民協働を進めるための“温故創新”』
この基本理念の実現のための3つの柱（注意事項）

①自治公民館活動などこれまでの市民活動の維持と活

▲カツオジョギング大会での「まくらざきハーモニーネットワーク」と「枕崎の食を考える会」のもてなし。走り終えた選手にカツオの腹皮や漁師鍋などをふるまってくれました。こういった市のイベントなどでは、欠かせない存在となっています。

市民協働指針を策定

市民の参加のもとで計画的なまちづくりを進めるための

市では、第五次総合振興計画において目指すべき都市像を『人と物が豊かに交流し、協働で築く活力創造都市』と定め、市民の参加のもとで計画的なまちづくりを進めています。このような中、市民で構成された「まくらざき市民協働研究会」から、まちづくりなどにおける市民活動の充実、活性化策などについて調査研究を重ねた結果を市に提案していただいたものを「市民の声」と「やる気」と受け止め、市でも十分な検討を行い、『市民協働によるまちづくりを進めるための指針』市民協働を進めるための「温故創新」を定めました。

用（温故）

従来の市民協働によるまちづくりの課題などを点検し、地域や市民を活かした安全で住みよいまちを形成するための事業を推進

②市民ニーズや社会情勢に対応した新たな取組（「創新」）

まちづくりに対する市民の意見や要望の提案や収集により、社会の動向変化に対応する事業のあり方を検討し、市民協働によってその実現に当たる
③助け合い、支え合う意識の醸成と自立心の向上
市民協働によるまちづくり

市民協働を進めるために

により、市民の絆を深め、市民の自立性を高める。

①市民協働の方法を知る
「住民主導」住民が主導し、行政が協力して活動する。
「双方同等」住民と行政が連携、協力して対等な立場で活動する。

②市民協働は？取り組むべき身の周りの課題は、「個人や身の周りの課題は、個人や

家庭で解決する」「地域で解決する」「行政と解決する」というスタイルを想像し、どの段階の実践がふさわしいか判断します。
そして、協働の相手や方法について検討します。

③市民協働による取組の進め方
協働を進めるお互いにおいて「相手を理解し、信頼関係を築き、ともに学び合う」「相手の特性と自分たちが持っている特性を組み合わせ、ともに良き競争を行い計画実行する」その結果をお互いに評価し、

推進のための役割

①市民活動団体等が担う部分
市民活動団体等は、自ら主体的な運営をする方が即応性、柔軟性、きめ細かさなどの点で優れていることを理解し、

住民を取り込んだ積極的な活動等を行うことで住民の理解を得ます。また、地域の様々な課題に対する団体の活動分野等の検討を行い、その活動が住民から受け入れられるような組織体制づくりを行います。

食の祭典や食育講演会などを行っている枕崎の食を考える会との「食育推進事業」、自治公民館や小・中学校等で取り組むEM菌を利用した「河川環境浄化プロジェクト」、市民協働に係る講演会等の開催やパブリックコメント制度の導入など23事業において市民協働により取り組みます。

どんな事業に取り組むか

■用語の説明

【協働】環境や考えが異なる住民や市民活動団体、事業者、行政などがまちづくりという共通の目的のために対等な立場で連携・協力し、それぞれの役割と責任を担ってともに活動すること。

【市民活動】市民が、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的に自主的・自発的に行う活動で、「保健、医療、福祉の増進・社会教育やまちづくりの推進・学術、文化、芸術、スポーツの振興・環境の保全」など特定非営利活動促進法に規定する活動（営利、宗教、政治・選挙を目的とする活動は除く）。

【市民活動団体】市内の区域を基本とした市民活動を行うことを目的とし、規約などが定められ、5人以上の会員を有する（入会に制限がない）団体。

■来月号から、毎月のコーナーで、市民活動や団体の取組などを紹介します。